



No.21

Jun.2006
NABUNKEN NEWS
CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE
NARA独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

奈文研 研究部門の大幅改組

この3月に、第1期中期計画が終了しました。中期目標・計画のもと、年度計画を立て、自己点検評価をおこない、外部評価を受けるという5年間でした。この間の全体的な総括と、現在、奈良文化財研究所が置かれた状況を踏まえ、新年度にあたり、研究部門の改組をしました。

奈文研は、奈良や京都の寺社をはじめとする日本の文化財保護に役立てるために、さまざまな分野の専門家が集い、実物に即した総合的で学際的な研究をおこなう組織として出発しました。この基本は今でも変わりませんが、平城宮跡解明の発掘調査を開始してからは、その勢力の多くを発掘に振り向けてきました。高度経済成長下、全国的にも発掘の比重が高まるなか、奈文研に対しても埋蔵文化財分野での主導的役割が要求されました。しかし、今日、埋蔵文化財をとりまく情勢が様変わりし、平城宮跡も世界遺産に登録されました。もちろん、まだまだ解明の進んでいない飛鳥藤原宮跡など課題も多くあります、その方向性を見直す時期になっています。

なかでも、特に遺跡の整備活用が、近年強調されるようになってきました。保存された遺跡や蓄積された膨大な遺物を、もっと国民に還元し、豊かなまちづくりや村おこしにも役立てようではないか、との声が強くなってきたのです。

文化財の概念に新たなジャンルも加わりました。たとえば文化的景観の保全です。生産遺跡や村落風景などと一帯となったこの分野も研究所が担うべき新たな研究課題です。

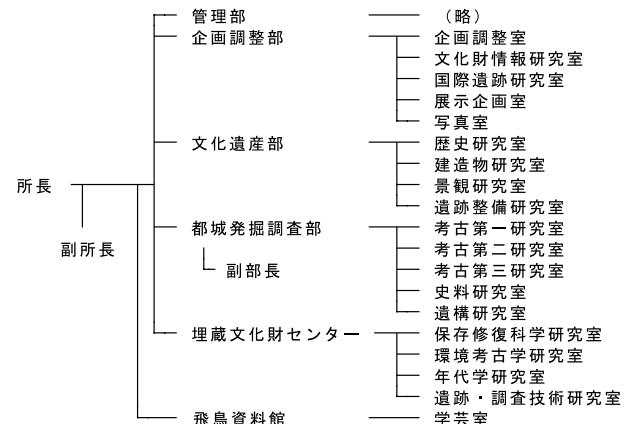
さらに中国・韓国との国際共同研究や文化財保護の国際支援の急速な拡大があります。現在、アンコールワット遺跡やバーミヤン遺跡などの保護支援をおこなっていますが、研究所の技術が国際的にも高く評価され、支援に対する期待の強さを痛感します。

人員増や予算増がのぞめない行革の時代に、一方では、新たな事業がどんどん入ってくる。文化財保護のために不可欠な基礎研究を堅持しつつ、どのように新しい期待に応えていくか。その一つの答えを私たちは思い切った研究組織の改編に求めたのです。

組織改編の狙いは、一口で言って、新たな研究事業に対応できる柔軟な組織づくりです。そのため、定員を室ではなく部に配属するなどの基本的な改革をおこないましたが、目に見える主な改組は以下のようです。まず最初に、平城宮跡と飛鳥藤原宮跡の両調査部を一つにし、研究員が必要に応じて容易に移動できるようにする。2番目に、企画調整部を新設し、国際支援のような東京文化財研究所と共同でおこなう事業に対応する。3番目に、文化遺産部に景観研究の担当室を新設する。4番目に、埋蔵文化財センターを発掘調査支援技術や保存技術の開発を主とした考古科学的事業に特化し、発掘技術者研修は、埋文センターだけでなく研究所全体で担う、などです。

意図通りにうまく機能できるように、研究所員一同、意識改革し、努力していく覚悟であります。皆様のご理解と、今後とも変わらぬご支援をお願いします。

(所長 田辺 征夫)



改組された研究部